

映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」 2024年10月全国公開・全国上映会開始

”毒の油“を口にした母はカネミ油症被害者に
母と子を繋ぐ「へその緒」から毒は子や孫まで



「カネミ油症」とは、

1968年(昭和43年)、カネミ倉庫(福岡県北九州市)が製造した食用米ぬか油に混入したPCB(ポリ塩化ビフェニール)から加熱により、ダイオキシン類(PCDF)が生成され、日本最大の食中毒事件が引き起こされた。皮膚疾患(巨大なおできと悪臭)、内臓疾患、強い倦怠感など、あらゆる病気の症状がカネミ油症被害者を襲った。

そして「カネミ油症事件」発生から56年。今も次世代(毒の油を口にしていない子や孫)にも被害の連鎖が続いています。

映画の内容は、

◆カネミ油症被害者の苦悩、家族の証言を聴く
福岡県、長崎県を始め、西日本一帯に広がるカネミ油症被害者の声を聴きます。

◆なぜ「カネミ油症事件は起きたのか?」、原因の徹底究明と歴史的検証

今わかる「カネミ油症事件」の原因とは?当時の映像、報道を考察し、ドラマパートで描きます。原因加害企業(カネミ倉庫)、原因製造者企業(カネカ)の責任。国の救済の”不作為“、被害者への補償のお粗末さ、「油症治療研究班」(九州大学)がどのように関わってきたのか?半世紀を越える歴史の検証を行います。

【スタッフ】

◆撮影・監督・プロデュース:稲塚秀孝(タキオンジャパン)

「二重被爆～語り部・山口疆の遺言」(2011)「フクシマ2011～被曝に晒された人々の記録」(2012)

「書くことの重さ～作家 佐藤泰志」(2013)「NORIN TEN」(2015)

「仲代達矢」役者“を生きる” (2015)「奇跡の子どもたち」(2017)「憲法を武器として」(2017)

「ああ栄冠は君に輝く」(2018)「ヒロシマ ナガサキ 最後の二重被爆者」(2019)

「日高線と生きる」(2021)「役者として生きる」(2022)

◆プロデューサー:藤原寿和 日台油症情報センター長

1946年生まれ。茨城県出身。早稲田大学応用化学科卒業後、東京都職員として公害問題に携わる。2002年、カネミ油症被害者支援センター設立、初代事務局長。

映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会

《製作委員会事務局》藤原寿和 080-4868-7388 fujiwara.t2015@gmail.com

ホームページ: <https://hahatokonokizuna.com>

